

棚田に吹く風

2024
春
Spring
季刊

2 特集

棚田花壇

5 フォトエッセイ

美しい棚田との出会い

6 里山だより

赤とんぼとホタルが舞う「東和の布沢棚田」
福島県二本松市旧東和町

8 棚田BAR

生きものの屋の里山考

9 棚田博士は今日も行く

比良山系東麓・琵琶湖岸の棚田
滋賀県高島市鶴川

12 読者のひろば

14 棚田俳壇

追悼

15 Project Report



花棚 壇田

棚田での稲作が困難になって、他の畑作物に転作し再利用されることは多々ありますが、それでは棚田の形はかろうじて残るものの、棚田の景観的価値は減少してしまいます。そこで昨今、棚田にさまざまな花を植えることで、その景観的価値を維持しつつ、観光資源にしていこうという試みが各地で行われています。今号は春らしく棚田を彩る美しい花々をお楽しみ下さい。

愛媛県大洲市 稲積棚田

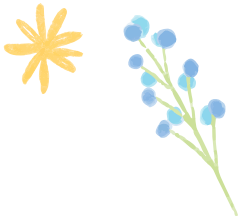
「愛媛のたなだん」に掲載され、棚田カードにも登録されている棚田。全体は約70枚・4haほど。そのうちの8枚が、見事な菖蒲園になっている。

十数年前に一軒の農家が1枚の田に菖蒲を植えた。娘夫婦が後を継ぎ、今は次男（がんちゃん）が守っている。約120種類・1万株、菖蒲田の枚数も増えている。

地域の協力でイベントを実施していた時期もあったが、コロナ禍や高齢化・過疎化でイベントはほぼできなくなった。

菖蒲田の手入れでいちばん大変なのが草取り。一枚目から順番に取り始め、最後の田を取り終えた頃にはまた1枚目の草が伸びているとか（費用は全て個人の持ち出し）。それでも、大勢の人が楽しみに見に来てくれるため、自分が元気なうちは続けたい、と「がんちゃん」の弁。

菖蒲と競うように、田の周りにはアジサイが咲く。約250種。水色、白、濃いピンク、紫と、こちらも色とりどり。そして秋には、田の畔を彼岸花が彩る。



●稲積癒しの里山
花菖蒲園

●愛媛のたなだん



三重県津市 二俣地区の棚田

三重県津市二俣地区は、民家の合間に棚田がある日本の原風景が残る里山です。ただ昨今は耕作放棄地や太陽光発電設置地が増えて来ました。地区の景観をとどめようと「津市白山美化推進委員会」を立ち上げ、西側にそびえる紀伊半島の山々からの豊富な湧水を利用して、2007年、斜面に広がった6880㎡の棚田に睡蓮を植えました。ピークは6月下旬から七夕ごろまで。5色の花が咲き、今では沢山の観光客が訪れる場所となりました。メンバーも高齢になり真夏の草刈りなど苦労されていますが、地区の方・訪れる方の為頑張っておられます。入場料などは無料ですが募金箱が設置されていますので、維持管理の為に協力お願いします。

(写真提供…中森勝「二俣区美化推進部代表」)



●津市白山美化推進委員会
Facebook



福井県越前町 梨子ヶ平の千枚田

この地域はもと水仙が自生しており、日本三大水仙群生地の一つでもある。棚田で水仙栽培を始めたのは大正10年(1921年)に名古屋の生花市場に出荷したのがきっかけというから、「棚田の花壇」としては先駆者中の先駆者といえよう。水仙のオーナー制度も2001年から実施している。

現在の最大の問題は獣害。猪に加えて最近は鹿も増えた。球根を目当てに、いくら柵や網を張っても倒され飛び越えられ掘られ、侵入を防ぐのに本当に苦労している。見事な景観がスカスカになり、酷い場所ではぼろぼろになってしまったという。それでもオーナー制代表の滝本さんは「元氣なうちは頑張ります」と言っておられた。2020年には花の栽培地として初めて、国の重要な文化的景観に指定されており、獣害防止の計画に補助も出ている。なんとか効果が上がることを願う。



●越前水仙
棚田オーナー募集



愛媛県西条市 天川棚田



愛媛県西条市（旧東予市）河之内天川地区にある「天川棚田」は、標高200mに広がる農村の原風景が残った美しい棚田です。8月下旬にコスモスの種をまき、秋にはコスモスが棚田一面に花を咲かせるその景色は圧巻です。また古民家の展示も行っており、今では珍しい「こて絵」を見ることが出来ます。開花時期には毎年多くの観光客でにぎわっています。

天川棚田保存会では、休耕田を活かしてコスモスの栽培、石鎚山系と瀬戸内海を一望する展望台の整備を行い秋のコスモスの開花頃には都市住民との交流の場を提供しています。また、関係者が協働で農道水路の維持管理作業や野生動物防護柵の設置管理を行っています。

（文・写真…天川棚田保存会）



●天川棚田保存会



宮崎県日南市 坂元棚田



稲作が困難で畑地化していた7枚の田んぼに、4年前からひまわりを植え始めた。その数、約5万本。ひまわりの種は食用にもなるが、食べられるようにするにはきちんと乾燥させなければならぬとのこと、もっぱら観賞用。昨年は、花が見頃になった田から順番に、無料で刈り取って持ち帰ってもいいようにしたそうで、人気だ。

春は菜の花。夏のひまわりが終わった後は、茎などを鋤き込み、10月10日前後に赤花蕎麦の種を撒く。花が美しいこの品種は高嶺ルビーといい、こちらも観賞用で食べられない。開花は11月下旬。道の駅酒谷の周りにも咲いていて、種も売られている。

秋の畦に咲く彼岸花も入れれば、坂元棚田では年に4回も美しい花が見られることになる。



●道の駅酒谷





荒野から蘇る棚田

フォトエッセイ
美しい

棚田との 出会い

写真・文
高田 昭雄

長い間撮影を続けてきた岡山県美作市の上山の棚田である。つい50年前まで、この一帯は大小あわせて6000枚とも8000枚ともいわれる棚田が広がっていた。「上山の千枚田」と呼ばれ、この地方有数の米どころであり、谷筋に拓かれた棚田は美しく見事であった。しかし、1970年代に入って農政の大転換ともいわれる減反政策が取られるようになり、放棄された棚田が目立つようになった。

今から20年前、都会から若者がやってきて、荒れ果てた棚田を再生させていった。まず草刈りから始め、長い時間をかけて一枚また一枚と復活させていった。

気の遠くなる作業が何年も続いた。彼らは風の無いよく晴れたある日、かつての棚田に火をかけた。棚田復活を目指しての第一歩である。炎の中からかつて棚田があった立派な石垣が現れた時は、また一歩復活が進んだように思われた。今では棚田をとおして多くの人たちの繋がりが増え、共助の在り方も体感できる場所となっている。

復田された棚田での代掻き



高田 昭雄 たかた あきお

1939年 岡山県生まれ
1971年 三つの子どもの世界 四人展(銀座ニコンサロン)
1972年 カメラ雑誌「フォトアート」招待作家
2005年 個展「橋脚になった島」(新宿コニカミノルタプラザ)
2005年 写真集「橋脚になった島」
2014年 個展「よみがえれ千枚田」(新宿コニカミノルタプラザ)
2016年 写真集「水島の記録」(吉備人出版)
2021年 写真展「恵みの川・歴史の道一小田川」
故石津良介氏に師事、協同組合日本写真家ユニオン会員

棚田・里山
からの
たより



赤とんぼとホタルが舞う「東和の布沢棚田」 ～農の暮らしと多様な生き物の共生する棚田を次世代へ～

子どもたちの歓声が響く 棚田ビオトープ

「うわー、ドジョウをつかまえた!」「ギンヤンマのヤゴだよ!」
布沢棚田の真ん中にあるビオトープでは毎年7月に生き物観察会を開いています。

小学生や大学生が泥んこになってタニシやドジョウ、ゲンゴロウを捕まえたり、アキアカネ、エゾイトトンボ、ギンヤンマを追いかけます。夜のホタル観察会には「初めてホタルを見た!」「木の上からホタルが降りてくる!」と歓声があがります。地元の東和小学校の児童も5年前からビオトープの生き物観察会にやってきました。

ここは福島第一原子力発電所から北西に48kmの位置にあり、東日本大震災後は「土に触るな」「外遊びはするな」という環境に置かれていましたから、子どもたちが田んぼに入る、野良を駆け回る光景にうれしさがこみあげてきました。

里山の恵みに感謝をする 「布沢棚田の芸術祭」

コロナ感染拡大のなかではお祭りや運動会などでの懇親会ができなくなつたときに、若いお母さんたちから「一緒に集まる機会をつくらう」と案山子づくりがはじまりました。布沢集落には天女が舞い降りたと云う伝説があることから女性部を天女の会と名前をつけて案山子コンクールの開くことになりました。ちょうど東京の社会芸術チーム（彫刻家、造形家）の皆さんが子どもたちとお母さんに粘土での陶芸体験の応援に来てくれたことがきっかけで、3年前から「布沢棚田の芸術祭」を稲刈りの終えた10月下旬に開催しています。前夜祭では棚田のライトアップと田んぼの真ん中にキャンプファイヤーでピアノコンサートと天女の踊りが舞います。

案山子コンクールには二本松市内だけでなく、棚田オーナーの皆さんや福島大学生など20体の案山子の力



1：布沢棚田の田植え／2：棚田ビオトープと生き物観察会／3：東和小4年生生き物観察会／4：生き物観察会2022

作がそろいました。陶芸体験では子どもたちとお母さんと大学生がコーヒークップや皿や想像上の顔などとも思い思いにつくっています。

さらに棚田のモチ米での餅つき大会と天女の会が持ち寄った野菜での豚汁、新米のおにぎりを来場者に振る舞う棚田の収穫祭も盛況です。案山子を立てるのは、「こんなに稲が豊かに穂ったのは、山の神、田の神、水の神に感謝をするために山の神を案内する子ども」という意味があることを古老から聞いていました。山の神、つまり自然と人間が一体となって五穀豊穡を祝うのが秋の祭りと言つことす。

棚田を真ん中に高齢者も婦人も兼業農家も共に支え合う

福島県二本松市旧東和町の「東和の布沢棚田」は標高250mから400mの沢沿いに広がっています。布沢集落は面積14haの急傾斜に155枚の棚田と畑のある里山です（指定棚田は8ha）。農家の会員は22名ですが最高齢者は90歳で米づくりを続けています。お年寄りも婦人も兼業農家も一緒に集落の活動に参加

をしているからこそ棚田の維持管理が守られているのだと思います。2019年の大雨集中豪雨では棚田が将棋倒しのように崩れましたが、いち早く災害復旧に力をあわせることができたのも、集落の協力の支え合いです。

牛飼いをやめた農家が牧草に菜種をまき、春には菜の花と桜の共演が楽しめます。高齢で米づくりができなくなったと、10aの田んぼを蓮池にし、8月にはピンクの蓮が咲き誇ります。沢沿いの農道にはマリーゴールドが6月から10月まで彩りを添えます。

「いい里・いい米・いい仲間」を合言葉に美しい棚田の景観を未来につなげていくことが私たちの仕事ではないかと思っています。

（布沢集落・布沢の環境を守る会代表 菅野正寿）



田んぼの蓮池

棚田へのアクセス

【公共交通】 JR東北本線・安達駅前よりタクシー利用で18分

【自動車】 東北自動車道二本松ICから国道4号県道62号を東方向へICから15km

お問い合わせ

布沢集落・布沢の環境を守る会
Tel.090-6252-5334

福島県二本松市



1：野良アート（山の神田の神）／2・3：案山子／4：天女の舞二部

棚田BAR ～棚田里山酒めぐり～



書き手：
大久保芳洋

奥能登エリアの絶品・棚田酒を2つご紹介します。



「宗玄 石川門」

宗玄酒造
石川県珠洲市



「奥能登輪島 千枚田」

清水酒造店
石川県輪島市



能登半島の最奥部にあたり、吉ヶ池集落の棚田など周辺地域の棚田で作られた酒米を使った純米酒。品種は石川県オリジナル酒米の「石川門」。芳醇な風味と米の旨味が酒好きにはたまりません。お酒を通じた棚田保全ボランティアや、地元中学生が育てた棚田米のお酒を二十歳まで廃線トンネルで貯蔵するなど、様々な取り組みが活発に行われてきました。

海へ続く階段のような絶景の棚田、白米千枚田のお米が一部使われているという非常に貴重な純米酒。観光客にも人気で、棚田酒としての知名度が高いヒット商品です。



能登半島地震

白米千枚田を修復し、再び米作りを。

この度の能登半島地震では、これらの生産地を含む多くの水田が被災し、畦や水路の修復など課題が山積しています。また酒蔵も被災し生産ができずに復旧作業に追われている状況です。今回ご紹介した両酒蔵とも、公式ウェブサイトで最新情報が発信されているので、ぜひチェックしたいです。ただし問合せ連絡等は現状受け付けていませんのでご注意ください。白米千枚田では、復旧作業のためのクラウドファンディングもスタートしました。こうした活動をぜひ応援していきたいでしょう。

白米千枚田愛耕地
クラウドファンディング
※4月5日(金) 23:00迄



<https://readyfor.jp/projects/138190>

Tanada BAR

生きものの屋の 里山考

文・写真 (株)環境指標生物 勢井 慎太郎

イモリで読み解く地域の違い

春になり、水田に水が入り始めると、待つていたかのように両生類が集まってきます。今回はその中でも一度見れば忘れられない、鮮やかな赤と黒の腹面模様をもつアカハライモリについて紹介します。

アカハライモリは樹林と水域の両方を利用して生活しており、里山では棚田のような水田を利用して繁殖する両生類です。平地から山麓部まで広く見られることから、田んぼを代表する生きものの一種といえます。彼らの特徴として特筆すべきは、そのお腹の色と模様です。背中黒色ですが腹は名前の通り赤く、不規則な黒い斑紋を持ちます。このお腹の色と模様は、サギなどの捕食者への警告色としての役割があるのですが、一匹ごとに違って同じ模様はありません。そのため、お腹の模様を記録することで個体を識別することもできます。また田植えの時期には、雄が雌に対して尻尾を震わせたり、雌が雄の体の一部に触れたりといった複雑な求愛行動を行うのですが、その行動は関東や近畿地方などで異なっており、お腹の模様を含め、地域ごとの特徴を持っています。

各地で見られる生きものではありますが、地域ごとの水田が減ることとその土地の特徴を持つアカハライモリも減少傾向にあります。里山の景観や文化に地域性があるように、水田に住む彼らにも地域ごとの特徴があることを、多くの方に知ってもらえると嬉しいですね。



2列の小さな黒斑が特徴的なアカハライモリ

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

比良山系東麓・琵琶湖岸の棚田

滋賀県高島市鵜川



なかしま みねひろ
中島 峰広（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク名誉代表。全国棚
田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミ
ット開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』（以
上、古今書院）。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

高島市は滋賀県の北西端を占め、琵琶湖の西岸に位置する。棚田のある鵜川は市の南東端、琵琶湖岸にあり、大津市に接している。鵜川については、これまでに2回ほど関心を持ったことがある。

最初は棚田の研究を始めた当初、滋賀民俗学会紀要3号（1965年）に発表された橋本鉄男氏の「比良山系東麓のシウズヌキについて」という論文である。それによると、比良山地東麓、洪積台地に続く鵜川・滝川・比良川・大谷川・木戸川などがつくる複合扇状地ではシウズヌキとよばれる横井戸が設けられ、灌漑水として利用されていたという。横井戸の断面はタテ・ヨコ20センチほどの正方形で、上部を載石で覆い、田面から1メートルの深さの作土・床土の下に設けら

れていた。棚田の一枚あるいは数枚毎に出口が設けられ、排出される水が灌漑水として利用されていたそうだ。しかし、現在はその存在を確認することは出来なかった。

もう一度は1999年の棚田百選の選定時である。この時私も選定委員の一人だったので記憶しているが、耕作放棄率が50%以上ということで選ばれなかった。しかし2022年の「つなぐ棚田遺産」では団地面積が24・1畝から13・3畝に整理され、耕作放棄率も12%に減じたことによりめでたく選ばれたのである。

2022年5月下旬に鵜川を訪ねた。東京から新幹線で京都へ、京都から湖西線の快速に乗り、大津市の北小松で下車する。駅前か

ら琵琶湖岸に出て、国道161号を北上すれば、北小松の次の集落が高島市の鵜川で、おおよそ3キロほどの距離である。

田「撮り鉄」が待ち構える棚

棚田は、鵜川を渡ってすぐ、山際に向かう直線状の道を国道から250メートルほど進むと湖西線に突き当たり、ガードを潜ると目の前に棚田が現れる。線路と山際までの250メートルの間の傾斜15分の1と20分の1の緩い斜面に広がっていた。農水省の個票によれば面積15・4畝、枚数374枚、耕作放棄率12%



鵜川棚田全景

法面は石積みとある。一枚の広さは、狭いものは1〜2^坪、広くて7^坪ほど。3^坪程度のものが多い。法面の高さは1〜2^{メートル}ほどである。

作土は浅いところでは20〜30^{センチ}程度しかなく、床土が薄いところではトラクターの刃が花崗岩の礫にあたることもある。水持ちはよくないが、琵琶湖から揚水している水資源公園の水が供給されるようになってから、水不足になることはなくなったそうだ。

山際には高さ2^{メートル}の金網が長さ2〜3^{キロ}に亘って張り巡らされイノシシなどの侵入を防いでいる。金網の先の谷間には百選にえらば

れなかった因となった放棄された無残な姿の棚田が見える。反転して湖側を見ると、高架になった湖西線が棚田を限り、線路上を金沢や富山に向かうサンダーバードが走り抜ける。このため、「撮り鉄」の格好の撮影スポットになっており、訪ねた日もカメラをかまえるオジさんが列車の通過するのを待っていた。

湖面を挟んだ対岸には西国三十三観音の一つ長命寺のある長命寺山が威圧するように対峙していた。

幾つもの顔を持つ キーパーソン

現地では鵜川棚田保存会の会長・山田善嗣さん66歳にお会いした。地元の高島高校を卒業後、京都市内の短期大学に進学、卒業後高島町役場に入庁、60歳の定年まで勤務した。若い時から父親を手伝い農作業に従事してきたが、父親が亡くなった42歳の時から本格的な兼業農家として耕作に携わった。現在所有する水田1・3^畝のうちの80^{パーセント}と作らなくなった他家の70^{パーセント}を引き受け、1・5^畝を耕作している。所有する機械類はトラク

ター25馬力、乗用4条植え田植機、3条刈コンバインなどである。

市役所に勤務したキャリアから山田さんはいくつかの顔を持っている。まず、集落が経営する道の駅のミニ版といえる「うかわファームマーケット」の責任者である。農家や商店など150の経営体に参加するもので、米や他の農産物、加工食品や雑貨などを扱い、近くに本格的な道の駅ができるまでは繁盛し、年商8千万円を記録したこともあったそうだ。

次に、役所を退職した翌年の平成28年に、集落の男子8名と女子5名を加えた13名で保存会を結成、



1：獣害を防ぐ網／2：獣害を防ぐ柵／3：広めの棚田を区切って複数のオーナーに／4：育成中の果樹



5:6:うかわファームマート、野菜や米が並ぶ／7:保存会会長・山田さん



自らが会長になり、棚田オーナー制を立ち上げた。5年間放棄されていた水田38^アを10^ア当たり5千円で借り受け、体験・交流型のオーナー制を始めた。面積100[㎡]で年会費3万円を払い、特典として玄米40[㍩]が支給され、田植え、稲刈りの体験ができるという仕組み。令和4年にはコロナ禍のなかで38組の応募があったそうだ。

ウメ・ユズ・ブルーベリー・ミカンの4種類を植栽し、鵜川を果樹産地にしようとする試み。現在50^アを植え付け、さしあたって1^畝の栽培面積を目指しているそうだ。

鵜川の未来の担い手は

ところで、これからの鵜川であるが、現在戸数50戸のうち、およそ半分の25戸が農家であり、さらにその半分に近い13戸が「棚田オーナー制」や「果樹生産振興会」に関わり集落活動に参加している。現在のメンバーは会長の山田さん

棚田へのアクセス



【公共交通】JR湖西線・北小松駅前からタクシー利用で棚田まで約10分

【自動車】京都方面から国道161号を北上し、北小松駅を過ぎての道路標識『高島市』に注目ここを左折し狭い農道に入る。線路をくぐると一面に棚田が見えてくる。京都市街から車で約50分

66歳を中心とするものであり、それほど若いとはいえない。このままではあと10年もすればかなり高齢化が進み脱落する者が現れてくるものと思われる。その時にどうするか。山田さん自身は自分の子供たちよりも、今オーナーとして来ている40歳代の大津市民に期待しているということであった。



上:「撮り鉄」のおじさん／下:通過するサンダーバード



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK!
(声)800字まで、レポート400字まで。写真も添えて
〒160-0003 東京都新宿区西新宿七ーハー六
トーシンハイム新宿七〇四号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛
メールでも受け付けています ↓ hensyuun@tanada.or.jp

棚田に導かれ

東京都三鷹市
牧口 光郎



太陽美術展の会場にて



『棚田と桜（儀明の棚田）』（筆者撮影）

私は2021年から新潟県十日町市松代に通うようになり、2023年に棚田ネットワークに入会しました。写真を趣味にしている私が思う棚田の魅力は、「うねり」にあります。畝も山並みも緩やかな曲線を描いてうねっています。直線で造られている都市空間と対照的です。視覚的な魅力だけでなく、棚田の場に居ると様々な感慨が湧き起こります。

新潟県で地すべりが古くから起きてきたこと、それをひき起こす地質や降雪といった自然環境、地すべりの被害を受けながら克服し、斜面に棚田をつくって暮らしてきた歴史。そのような棚田の魅力や価値に導かれて松代に通ううち、蒲生の棚田と儀明の棚田で再生に取り組むトロノキファーム代表の阿久澤剛樹さんとの出会いから、棚田再生の活動に協力する

ことになりました。協力といっても、東京に住む私にできることは、ごくささやかなものです。昨年の暮れ、儀明の棚田で収穫された無農薬天水米がトロノキファームから届き、そのお米本来の味も然ることながら、オーガニック食生活を実践する友人ともシェアしたところ、たいへん喜んでいただきました。今年は、草刈りや稲刈りに参加して、その場面を思い出しながら棚田米を味わうことを想像しています。

また、私は年に4回ほど写真展への出品や個展を開催していますが、その度に棚田の写真を展示しています。来場された方々には、棚田に関心を持っていただきたいとの想いから、棚田の魅力や保全の現状などをお伝えしています。



読者の Best Shot!

星峠の光環
新潟放送 佐藤隆夫

棚田の番組（まつだい棚田ストーリー「耕して天に至る」）の撮影で、2年前から、十日町市松代の星峠をよく訪れるようになりました。この写真は、去年11月26日の6時46分に撮影したものです。撮影時は良く分かりませんでしたが、朝日の周りに光の輪が見えます。「光環（冠）」です。この日の朝は氷点下の冷え込み。この現象は、大気の大気微細な水の結晶や水滴などによる光の回折のために起きるそうです。棚田の風景は、毎日毎日その時の季節や気象状況によって、また見る人の気持ちによってその見え方が変わりますね。



「まちの先生見本市」に初参加して

埼玉県所沢市 松田 幸一

2022年に引き続き新宿中央公園を会場に、新宿区内最大級のSDGsフェス「新宿SDGsフェス2023」(第21回 まちの先生見本市!)が12月23日(土)に開催されました。

SDGs達成やゼロカーボンシティ実現に向けて、企業・NPO/NGO・大学・行政機関などが環境や社会に良い取り組みに関する体験型ワークショップやパネル展示、オーガニック野菜やフェアトレードコーヒー、おにぎりの販売などを行って、区民の環境学習を応援するイベントです。この日は晴れて冷え込みも心配していたほど厳しくなく、多くの方が会場を訪れ盛況となりました。

棚田ネットワークのブース(テント)では、棚田紹介の会報やパンフレット等の展示、脱穀体験と紙芝居(お米作り)を行いました。脱穀体験は竹筒の切れ込みに稲わらを通し、手前に引っ張って稲の穂先から籾を落とした後、竹筒からすり鉢に籾を移してソフトボールで籾すりを行い玄米の完成という、小さなお子様でもできる簡単なものです。この脱穀体験の過程で生じる音が軽快で心地よく夢中にさせるようで、親御様に何度もせがんで繰り返し体験していくお子様もいました。皆が喜んで脱穀したお米をお土産にして持ち帰られました。見守る親御様からは、紙芝居を通じて「お米はこうして食べられるようになるのよ。大切に食べようね。」と語りかける光景も見受けられました。

西新宿の高層ビルの中にあたかも出現したかのような棚田の景色が、私の心の中に大都会と棚田をつなぐ鮮やかなコントラストを描いていました。棚田ネットワークのブースを訪れた方がお米や田んぼに、果ては棚田に少しでも興味を持って頂きたいとの思いを強くした一日となりました。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



君のクイズ



小川 哲 著
1,540円(税込)
朝日新聞出版
2022年10月

とにかく面白い。一気に最後まで読み切ってしまった。この春おすすめの一冊。『地図と拳』で第百六十八回直木賞を受賞した小川哲氏の作品。クイズとは人生であると主人公が答える話。ストーリーの問題にも自然地理・人文地理・自然科学の話が多くでてきてあきない。山の話(富士山・仙台市の日和山・大阪の天保山)、NSCと略される三大学術誌とは? 黒烏龍茶の重合ポリフェノールとはなんと呼ぶか? 阪神淡路大震災の時出現した野島断層の話から活断層の説明と続く!

活断層といえは今回の能登半島地震で白米千枚田のことが気にかかる。二月二十七日の日経の夕刊に*復興の希望の光に*今年も規模が縮小されるが作付けされる見通し、とのこと。オーナー制度も継続。地元の方さんの取り組みが嬉しい!

私からの一言く皆様も是非発想の転換も図って将来の棚田の姿を考えてみましょう!

第50回

棚田俳壇

令和6年

表へしうと五七五

大揺れに千枚田の無事祈る
ヒコバエ田雨雪の日も白鳥が
白球追う子等の隣に学校田
白地にて守る人あり古田なり

新潟市 田入絵人

ドカ雪もいまいづこ姫こぶし
部屋籠りそうはさせじと春一番
我さきと競う開花の梅桜
思い馳せ能登の棚田に春来いと

所沢市 上久保郁夫



春一番杖つく我を押し戻し
春一番懐かし今年も福寿草
春一番呼びこむ梅よ耐えており
いんげんのつる先程に迷いおり
床屋にはゆくほどの髪もなく
人去りて熊鹿猪里帰る
能登地震申し訳なし炬燵で蜜柑剥く
牛一頭白米棚田思いおり

調布市 高木宏明



誌上添削

七転び八起きの春の赤子かな
■ヒント
七転び：自分のことばで
【次回募集は5月末日】解答例は下記

玄関を靴埋めつくすお正月
ないの里静かに見守る月冴ゆる
病得てしみじみ愛でる沈丁花
サクサクと霜柱踏む夢の中
(写)霊峰に雲掛かりおり冬の夕

浜松市 一露



雪解水田には戸軽き農具小屋
踏み入るや足れたねたと春の土
田起しや棚田の幸は春の風
鳥の巢や里山守る老い仲間

松戸市 井上久志

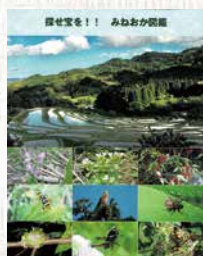
春霞能登の復興祈る日々
菜の花を摘みし空き地は家が建ち
水道が直る知らせや春一番
復興を祈願し寺の梅香る

豊島区 小川順子

ななと半の豊と五七五の俳壇：松島健

追悼

大山千枚田保存会 浅田大輔さん



ここに一冊の本がある。『探せ宝を!! みねおか図鑑』（特定非営利活動法人大山千枚田保存会発行）。大山千枚田（千葉県鴨川市）とそれを取り巻く嶺岡山系の自然文化が紹介され、掲載項目は650以上に及ぶ。残念ながら本冊子を編集した浅田大輔君はもうこの世にはいない。

享年42。昨年12月の急逝は、大山千枚田のオーナーを長く続け、共に活動してきた自分にとって相当大きなショックであり、「ここに謹んでご冥福をお祈りいたします」などという月並な言葉ではとても追いつかない。

横浜生まれ、大学院卒24歳の若者が大山千枚田の持つ生物多様性に魅せられ、地域に飛び込んで長狭街道の近くに住み18年。NPO法人大山千枚田保存会の理事・事務局長として棚田保全活動の現場の先頭に立つてきた。自らの専門分野を活かし、彼をチーフ講師とした自然体験や山賊体験は大人気のメニューで首都圏から年間7300人が訪れ、大勢の子供たちに自然の大切さを教えてきた。日々の農作業を通じて、その人柄は地域の「息子」として可愛がられてきた。全国からの視察対応や棚田保全団体との交流を通じて、先進事例である大山千枚田の活動に続け、という機運を各地に伝えてきた。現場にありながら観察研究を進め、出版物やマスコミ、イベント等を通じては数多くの情報を発信してきた。彼によって再認識された嶺岡山系の希少な自然や、虫たち、鳥獣花木たちも、彼に感謝し早逝を悼んでいるに違いない。

2024年三月
高山承之

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

2024年度は参加見送り



川代棚田での2023年度の活動は、コロナ禍から解放されマスク無しでのお米作り体験をすることができました。家族連れの参加者も多く幼児から大人まで自然豊かな棚田で農家さんの手ほどきを受けながら体を動かし癒されました。

体験活動で勉強になることがありました。その一つが雑草対策です。田植え後の一部で水面から顔を出した不整地（不陸）があり、その部分だけ雑草が酷く伸びていました。田んぼは水を張ることで空気を遮断し雑草の繁殖を抑えていることを改めて学びました。

現地では2024年度の作業が既に始まっていますが、棚田ネットワークは団体としては残念ながら参加を見送ることになりました。チーフスタッフの杉山さんが一時体調を崩し入院、現在は元気ですがスタッフ体制が手薄になったためです。参加を期待していた皆様には大変申し訳ありませんが、また再開できることを願っています。

（上久保郁夫）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

ヤマアカガエルの卵を探そう！



2月だというのに暖かい日が続いたので、ヤマアカガエルが卵を産んでいるかと心配になり、七十二節気のかすみはじめてたなびく霞 始 隼の頃・2月24日に調査に行きました。恵那市坂折棚田保存会の田口さんは「まだ早いよー」との返答でした。標高の高い棚田から順に調査。やはり、まだ早かったようで、卵はなく日陰になる棚田の水溜りは氷が張っていました。その後、保存会の浅谷さんから3月2日に「棚田ビオトープに2つ、卵を産んでいました」とメールがありました。

「第17回かえるの卵を探そう！」は3月20日（水／祝）に開催します。ヤマアカガエルは春先に田に水を張らないと（植物が生えていない水面がないと）卵を産むことができません。坂折棚田でも休耕化が進んでおり、次第にそういう水面が少なくなっています。休耕になって2～3年は水面もあるのですが、その後、ヨシや雑木などの植物が生え、水面が見えなくなり、また、水が引くと卵を産まなくなります。ヤマアカガエルは農業という生業とともに生きる、文化的景観の一部だといえます。

（相田明）

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

2024年棚田作業始まりました



12年目のお米づくりプロジェクトが3月9・10日に開幕！13名のボランティアが集まり、田起こし、畦切り、畦叩き、蓑口作りの作業を行いました。

西伊豆は、冬の名物「西風」といわれる、西寄りの海から強烈に吹き込む季節風が冷たく、果たして作業ができるか心配でしたが、棚田までは風は登っておらず、時折冷たい強風があるだけで、何とか作業を進められました。

2日目は、一転して穏やかなボカボカ陽気です対岸の南アルプスの山々の稜線がくっきりと見える絶景を望みながらの作業。毎年、蓑口周辺の水漏れで、水管理してくれている保存会さんに迷惑をかけているので、今年は特に入念に粘土質の土であるマサを敷き詰めて土台を強化しました。次回の作業は、4月13日（土）・14日（日）に代かき作業、4月28日（日）・29日（月・祝）に畦付け、畦塗り作業と続きます。

（高桑智雄）

全国棚田(千枚田)検索サイト

棚田NAVI

掲載地
200ヶ所
突破!



2020年春にオープンした全国の棚田情報がキーワード検索できる『棚田NAVI』が、掲載200地域に到達。今後も続々と更新していきますので、ご期待ください!

『棚田NAVI』は、地域はもちろん、オーナー制度、ライトアップ、棚田カードなどニーズにあったキーワードで絞り込み検索もできる業界初の棚田データベースサイトです。棚田の特色や基本情報ほか、GoogleMapとの連動でアクセスも早わかり。地域情報などは関連サイトへのリンクもありポータルサイトとしての機能も充実しています。

最新更新情報は、facebookページ、twitterにて告知いたしますので、ぜひフォローしてください!

<https://tanada-navi.com>



@tanadanavi



<https://www.facebook.com/tanadanaviwebsite>



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に
なりなう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円



法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

編集部から

今号の表紙写真は震災前の輪島・白米千枚田です。

1月1日の発表直後から報道に釘付けになりつつ、心の隅にあったのは千枚田のことでした。大規模に決っていないだろうか、畦は?水路は?もし原形をとどめないほど崩壊していたらどうしよう...。半月後、ペットボトルに縁取られた夜の千枚田の写真投稿を見た時は、本当にホッとしました。

日本でいちばん有名な棚田。能登の里山里海のシンボリックな存在。修復を目指すネット募金は開始後2週間で目標金額を達成し、今も継続中です(4月5日午後11時まで)。あの風景をもう一度見たい、という思いは日本中皆同じ。私たちもできる限り応援します。

棚田ネットからのお知らせ!

2024年の通常総会は
5月末に開催予定です!

- 日時: 5/25(土)
午後1時~
- 場所: エコギャラリー新宿
2階研修室

事業報告と決算、事業計画と予算案など。ミニ講演会、懇親会も計画中は非ご参加ください!



<https://www.tanada.or.jp>



2024年 春号 Vol.131

発行



認定NPO法人

棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16トーンシンハイム新宿704号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565